

次は長崎名物のカステラをということで、タクシー2台で松翁軒へ行った。もう一つの有名店である福砂屋は先日スズランの全国うまいもの市にも出店していたので、手に入れづらいこちらにしたのだ。どれもおいしそうで小倉や抹茶などいろいろな味付けのものも買ったが、さだまさしの小説「かすていら」で知った卵黄を増やして卵白を減らし砂糖も増量して生地のにじみ感をより濃く醸し出した「五三焼き」を、自分へのご褒美で買ってみた。帰ってからゆっくりと味わってみたら、倍以上の値段したのだが、甘くてねっとりしていてそれだけの価値が十分にあった。

夜の懇親会、参加26チーム中18チーム集まって盛り上がった。なお、8チームは参加しないのではなく、525人も入れる会場がないので九州のチームに遠慮してもらったのだそうだ。こんな年になっても、体中に湿布を貼ってでもラグビーをしたいバカ者たちの集まりなのだ。勝ち負けはほとんど関係なくて、まだプレイできることがうれしくてたまらないのだ。「できれば芝生の上で死にたい」と豪語している人も私を含めて多数いる。この場に先日亡くなった山口会長の姿がないのが、ずいぶんお世話になった人なので残念でたまらない。ラグビージャージ姿の写真を、下山会長代行が首から提げてずっと持ち歩いてくれているのがうれしい。

4日目の2戦目は、最初に私が敵の隙をついてペナルティキックからチョン蹴りして3～4人抜いて独走トライをしたことでペースをつかんだ後、前日できあがった「ハナマル」などから私がある程度前に出て敵を何人も引き付けたラックや、私のハードタックルで相手を仰向けに倒してボール奪ったラックから展開したりして、快速ウィング北野さんが4トライもして36-10で神戸市に大勝した。最近はおっぱら右ウィングをしていたが、チーム事情でやってみたセンターも楽しくなってきた。ただし、ちょっと後ろにこぼしたボールをキックで逃れようとしてミスキックしてしまったところからトライされたことは反省しなくちゃ。

今日も試合が終わったら即観光。島原方面や韓国へ行く人たちを除いた10人で佐世保バーガーを食べに行くことにしたのだ。シャトルバスで大村駅へ行き、JRの快速シーサイドライナーで佐世保駅まで行った。八高線を思わせる2両編成のジーゼルカーでワンマンカーだが、内海である大村湾は波もほとんどなく光り輝いていて、私たち海なし県民たちは思わず歓声を上げてしまった。

駅前がすぐ港で、せっかくなので軍港見学クルーズを申し込もうとしたら満員であきらめ、勧められたHikariという店に行った。ビーフのパテがさすがにおいしかったし、レタスにかけられているソースが甘くてそれでいて酸味も感じられる抜群の味で実においしかった。わざわざ食べに行く価値が十分にあった。TVの「Youは何しに日本へ」という番組でオーストラリア人が何度も日本に来て佐世保バーガーを食べ歩いては「Monday, Tuesday, Sasebo…」と歌っていたのを見ていつかはと思っていたのだが、念願がかなった。



帰りの車内で埼玉から卓球に参加した女性と隣り合わせになり、競技こそ違うけれどこんな年までできる喜びの話で盛り上がった。ラグビーは「きつい、きたない、きけん」の3Kのイメージが強く敬遠されがちだったが、昨年のワールドカップで南アフリカに勝ったことや五郎丸ポーズもあって一躍人気が再燃してきている。一方卓球は運動神経のない子が入る部活でださくて暗いイメージだったが、福原愛ちゃんの人気で徐々にイメージアップし、オリンピックでも毎回メダルを取れるようになったし、男子も水谷選手がドイツリーグで鍛えた結果激しい動きでメダルを取ったことですっかりイメージが変わったようだ。私たち高齢者が頑張っている姿を見せることで、生涯スポーツとしてより定着させていきたいと思う。